

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	桑原 正篤
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 島 正之
	副査 吉村 紳一
学位論文名	Effect of Tocilizumab Treatment on Patients with Coronavirus Disease 2019 and Bacteremia: A Retrospective Cohort Study (コロナウイルス疾患 2019 および菌血症の患者に対するトシリズマブ治療の効果：レトロスペクティブコホート研究)
論文審査の結果の要旨	
<p>コロナウイルス疾患 2019 (COVID-19) に対するトシリズマブの有効性が報告されているが、トシリズマブ投与により菌血症が増加する可能性が指摘されている。本研究は、2020年3月から2021年8月に兵庫医科大学救急集中治療室に入院した COVID-19 の全患者を対象とした単一施設レトロスペクティブ観察研究である。対象をトシリズマブ投与群とトシリズマブ非投与群に分類し、両群間の菌血症の発生率を比較した。さらに菌血症におけるトシリズマブ投与群と、発熱や炎症反応物質の反応に対する影響についても検討した。その結果、144 例の患者が試験に組み入れられ、そのうち 51 例にトシリズマブが入院当日に投与された。24 例 (16.7%) で菌血症を発症し、うち 13 例がトシリズマブ投与群であった。多変量ロジスティック解析では、トシリズマブ投与は菌血症の発生に影響を与えなかった。入院から菌血症発症までの日数は、トシリズマブ投与群 [中央値 10 日 (9~12 日)] とトシリズマブ未投与群 [9 日 (7.5~11 日)] で有意差を認めなかった ($p=0.48$)。また、菌血症発症時の CRP 値は、トシリズマブ投与群 [中央値 0.42mg/dL (0.27~0.44mg/dL)] でトシリズマブ未投与群 [7.48mg/dL (4.56~13.9mg/dL)] に比べ有意に低値であったが ($p<0.001$)、発熱は両群間に有意差を認めなかった。以上より、COVID-19 患者に対するトシリズマブを投与は菌血症のリスクは増加させず、またトシリズマブは CRP 値を抑制する一方で発熱は抑制しないことから、発熱の観察により菌血症の見逃しリスクを減少させることが示唆された。</p> <p>本研究の成果は、COVID-19 患者に対するトシリズマブ治療に関する有意義な知見であり、学位授与に値すると判断した。</p>	